

＜ 図 書 館 だ よ り ＞

～ Pulsus ～

図書館という「居場所」

2012年に早稲田大学に赴任して以来一年近くもの間、私は早稲田大学の図書館に足を踏み入れたことがなかった。当時はまだデニュアを得ておらず、とにかく自分の論文を公刊させることだけを目標にしていた。そのために、5本くらいの論文を同時並行して、必死に投稿・改訂を繰り返していた。早稲田大学は電子ジャーナルが充実している。私の研究に必要な文献は電子ジャーナルで入手できるため、図書館に立ち入る必要がなかった。一年近くも図書館に行かないことに驚かれる方も多いかも知れないが、ジャーナルでの公刊論文が研究の中心となっている経済学分野では珍しいことではない。

赴任してかなり経ってから、思い立ったように図書館に入ってみた。特段、調べ物があったわけではなく、「そういえば図書館をまだ見ていない」と気づき、足を向けたのである。ふらふらと館内をうろつきながら、閲覧席に腰を掛けたりしていた。そこで急に、昔のことを思い出した。

思えば、学部時代も院生時代も、目的もなく図書館に居座っていた。本を読んだり、書き物をしたり、床に座って本や資料を漁ったりしていた。慶應義塾大学の内部進学者だった私は、サークルに入っていなかった。当時の学食には「サークルの指定席」があったため、学食や学生会館に私の居場所はない。講義と講義の合間で話す相手もないときは、自然と図書館に行き時間をつぶしていた。その後に進学した米国大学院における修士課程学生用の「研究室」は、かなりの人数でシェアする大部屋だった。落ち着かなかった私は、やはり図書館にいた。学部時代も院生時代も、図書館は紛れもなく私の居場所だった。そして、それは私にとって至福の時間だった。多くの書籍に囲まれているというだけで、幸せだった。

図書館には様々な機能がある。学生に「居場所」を提供することも、その1つの役割なのだろう。コロナ禍で多くの制約を課さざるをえない中で、この時のことを思い出し、その役割の重要性を改めて認識している。

浅古 泰史（図書館副館長、政治経済学術院准教授）

◆図書館日誌（2020年1月～2020年8月）

- 1.8 戸山図書館企画展示「和歌文学の世界」（1/18まで）
- 1.14 中央図書館4階リニューアル・オープン
- 1.22 戸山図書館企画展示「ねえ！ムーミン」（2/10まで）
- 1.24 ビッグディール契約のあり方に関する検討委員会（第5回）
- 2.4 電子媒体検討委員会（第4回）
- 2.5 春季休業期間につき開館時間短縮（3/31まで）
- 2.25 システム共同運用記念シンポジウム ～早慶図書館の挑戦～開催
- 3.6 学習支援連携委員会（第2回）[メール審議3/13まで]
- 3.6 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、ラーニング・コモンズ等の一部エリアの利用を停止
- 3.24 ビッグディール契約のあり方に関する検討委員会（第6回）
- 3.27 開館時間短縮・土日休館（3/29まで）
- 3.31 中央図書館1階・地下1階改修工事終了
- 4.1 中央図書館ラーニング・コモンズ拡充工事完了
- 4.2 授業開始日（5.11）までの開館時間短縮・土日祝休館を決定
- 4.8 キャンパス立入制限に伴い臨時休館を決定（期間延長を経て、9.20まで）
- 5.11 郵送サービス開始 ※
- 6.15 特別入館（事前予約制）開始 ※
- 7.9 電子媒体検討委員会（第1回）
- 7.27 電子媒体検討委員会（第2回）[メール審議7/31まで]
- 7.29 図書連携協議会（第1回）
- 8.3 特別入館（当日入館可）開始 ※

[※ 対象者を徐々に拡大しながら実施]

早稲田大学図書館は2020年4月に臨時休館を決定して以来、感染拡大の状況や大学の指針などをふまえてサービスの提供について慎重に議論を重ね、館内に感染防止策を施しつつ、段階的なサービス再開や新しいサービスの提供に努めてまいりました。

現時点でもなお完全な再開には至っておりませんが、環境の変化に対応したサービスの再構築や情報資源の最適化等を新たな課題と捉え、運営体制を検討しております。

最新情報[新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う図書館の対応]

<https://www.waseda.jp/library/news/?p=8279>

早稲田大学図書館報 ふみくら No.98

2020年11月5日発行 3,000部

発行人／ローリー ゲイ

編集／笹渕 洋子・伊藤 岳・小俣 嘉紀・森 裕樹・池田 知美

発行／早稲田大学図書館 〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1 TEL 03-5286-1652

ISSN 0289-8926